



京都  
芸術  
劇場  
ニュースレター

shunjuza  
studio21  
Newsletter

特集

クロード・レズ演出

『夢と錯乱』 Réve et Folie

藤間勸十郎文芸シリーズ 其の三

一部『恐怖時代』／二部『多神教』

鼓童 特別公演2018「道」

2P  
5P

T・2P  
T・5P

T・6P  
T・7P

vol  
.40  
2018.5



藤間勘十郎文芸シリーズ 其の三

一部『恐怖時代』

二部『多神教』

振付師・藤間勘十郎が演出も手がけ、古今東西の文学に古典芸能の要素を取り入れて作劇するシリーズ三作目。谷崎潤一郎の『恐怖時代』、泉鏡花の『多神教』を勘十郎が独自の美的感覚で捉え、元宝塚歌劇団星組トップスターの北翔海莉が新境地を開き、多才な俳優陣と挑む話題作。京都芸術劇場 統括プロデューサーの館野佳嗣が北翔海莉さんに意気込みをお伺いしました。

2018年6月30日(土) 13:00

会場：春秋座

一部『恐怖時代』／作＝谷崎潤一郎、演出＝藤間勘十郎

二部『多神教』／作＝泉鏡花、演出・振付＝藤間勘十郎

出演：北翔海莉、市瀬秀和、鯨井康介、妃鳳こころ、  
古今亭志ん輔／三林京子 ほか

●公演情報の詳細はスケジュール一覧(P.8)をご覧ください。

—— 宝塚歌劇団を退団されてどのぐらいになりましたか。

北翔（以下、北） 1年と3ヶ月ですね。

—— すでに沢山の舞台にチャレンジされていますね。

北 ミュージカル・コメディ『パジャマゲーム』にディナーショー、自分のアルバムオールジャパンツアーや東京国際フォーラムでのコンサートもありましたし、豪華客船の飛鳥Ⅱのショーなど色々やっていますね。

—— 今回は藤間流ご宗家の演出になりますが、ご宗家・藤間勘十郎さんとは？

北 昨年、現代能『薔薇に魅せられた王妃』マリー・アントワネット』で一緒にしました。

—— あの作品は脚本が宝塚歌劇『ベルサイユのばら』で有名な植田紳爾さん、演出が能楽師の梅若玄祥さんで振付・作調がご宗家でしたね。出演されるきっかけは何だったのですか？

北 実は梅若先生が宝塚をよくご覧になっていて、先生と植田先生の中で話ができているみたいなんです。もう、そのお二人に言われてしまったら断れないですよね（笑）。

—— それはもう（笑）。

北 宝塚には日本舞踊会という舞台があるのですが、私がおの会に7年連続で出演していたので、何を勘違いされたのか植田先生が私を舞踊専科だと思われていて、それで出演を決められたみたいです。でも私、名取でもなければ、何でもないですよ。

宝塚では藤間、花柳、山村の3つの日本舞踊の流派をお稽古させてもらえて、どの先生にも可愛がっていただけだったので、どの流派の名取をとるか自分の中でこんがらがってしまったので、名取は取らずにいたんです。

—— それじゃあ、今回の舞台は楽しみですね！

北 それか、ご宗家が演出なさるから、「ああ日本舞踊が勉強できる作品なんだな」と思っていたのですが、蓋を開けたら全く踊らないんです。これっぽっちも踊らなくて逆にびっくりなぐらい。他のみなさんは踊ってらっしゃるんですけれどね。

—— 宝塚時代には色々な和物の作品にお出になられましたけれど、今度は和服姿での女優ですね。

北 在団中は、鼠小僧や勝海舟、退団公演では薩摩の桐野利秋など色々な和物を演じたので、着流しや袴はお手の物と思っていましたが、女性として舞台に出るとなると、所作一つにしても全く分からない状態です。共演者の河合春季さんが女形の役者さんだったので「女性は何、こうするのよ」って教えてもらったりして（笑）。

自分も今まで「理想の男の美学」を作ってきましたけれど、やはり女形も同じように女性の美しさの研究を

されているわけですから、実際に習ってみて女性の美しさについては、こういう方に何うのが一番だと思いましたが（笑）。普段の生活でも「こういう時から気をつけなくてはいけないんですよ」って言われたりして（笑）。

でも不思議ですよ、男役を極めた人と女役を極めている人が本来の性別でお芝居をするんですよ。有季さんは伊織之介という役で私と刀で刺し違えて死ぬんですが、そこで伊織之介が私に「覚悟はよろしいか」と言う。すると自然に私は覚悟ができています！という目をし、伊織之介はつい愛おしそうに私を見てしまふんですよ。するとご宗家に「君たち逆だから！なんでお銀の方は愛おしそうに目をしてないんだ！伊織之介は覚悟を決めた男の目をしてないんだ！」って注意されるのです。そういう具合なので、お稽古からいつも皆で大笑いをしていました。

それに今回は歌舞伎のセリフ回しでやるのですが、全く分からなくて、共演者の方々に手取り足取り教えていただいたり、共演者の三林京子さんからは「和物ができる女優が減っているから、あなたしっかりとりがんばりなさい」と言って沢山の引き出しを伝授してもらいました。

**新しい『恐怖時代』、  
そして北翔海莉ならではの「お銀の方」を目指して**

—— 東京の三越劇場で初日を観ました。第一部の『恐怖時代』は谷崎潤一郎の作品ですね。谷崎といえば『雪』とか『台所太平記』とか明るくて華やかな雰囲気

の作品が多い中、これは人殺しや残酷なシーンの連続ですよ。そんな悲惨な作品なのに舞台を拝見すると、不思議と暗さがなく、ウキウキとした雰囲気なことに驚きました。

北 出演者の方々が多種多様な俳優さん、落語家さんもいらして、みなさん明るいカラーの方ばかりなので、とにかく重たくならないように作っていましたね。

それに『恐怖時代』という今までは客席まで血が飛び散ったり、舞台が血の海になるような作品が多かったので、ご覧になったことのある方は、観たら気持ち悪くなってしまうのでは…と思われるかもしれませんが、今回はご宗家によって完全に新しく、今の時代に合った作品にしていますので、怖がらずに劇場にお越しになっていただけたらと思います。

—— 拝見していて怖いという雰囲気は全く無かったですね。

北 死の美学みたいな感じですよ。

—— 北翔さんが演じる「お銀の方」という役ですが、これは色々な方がおやりになっていて、歌舞伎では六代目中村歌右衛門さんや坂東玉三郎さん、一般のお芝居では浅丘ルリ子さんなども演じられていました。

北 はい。元遊女だったので色々な手を使って殿様の側まで行ける立場になり、自分の息子に家督をとらせたいという一心で様々な殺人事件を起こすという

役ですよ。ですからお話をいただいた時、自分には合わないだろうと思っただけです。だから「なぜ、私なんですか？」と何度もご宗家に問いただしました。だって、この役が出来る人が沢山いたかもしれないのに「なんで男役だった私なんですか？」と聞いたら、「本当の女性が演じたらリアルすぎて気持ちが悪くなる」って言われて。いや、私も女なんですけれどね(笑)。

でも、歌舞伎ではこの役を女形がなさいますよね。だから「一度、男を経験しての女だからリアルにならない。どこかで、女を演じる」という形になるのでストレートにならないから」と、おっしゃられて。

—— なるほど。いかにも…という方が演じられるとそのものになり過ぎてしまうということですね。

そして、この作品は脚本に忠実に上演すると、ものすごく残酷になってしましますが、それをあえて耽美的な美の世界に作り上げたように感じのですが、演じられて、いかがですか？

北 いくら殺人といえどもサイコパスな殺人鬼は私には合わないと思っただけです。ですから殺すことが快感なのではなく、「やむを得ず」とか「自分の息子に家督をとらせたい」とか、仕方無く殺すと解釈しました。ですから、お銀の方は殺害場面なるべく見ないようにしていたのです。そこは歴代の方々とちょっと違いますね。私ならではの「お銀の方を作ってみよう」と思いました。

—— やはり歴代の方々も工夫されていますものね。  
北 私のファンの方々の中では最初、「あの役をやる

の?」「なんで、あれを?」という意見が飛び交ったのですが、幕が上がったら「新しい北翔海利だね」「新しい引き出しを見たね」という声をいただきました。ですから三越劇場でご覧になられていない関西の方々に本当に見ていただきたいです。

—— 三越劇場でも最終日にはかなり作品がこなれてきたのでは。

北 はい。本来はアドリブを出すような作品ではないのにアドリブだらけでしたから(笑)。

—— 北翔さんといえば宝塚時代からアドリブの上手さで有名でしたもんね。

北 いえいえ(笑)また今回はご宗家のことですから劇場が違うと、また違う演出をされると思いますが、若干キャストも変わるので東京とは違う舞台になると思っていますよ。

—— そうすると、お銀の方が、いよいよ京都で大成されるというわけですね。

北 それです。私やっと女っぽくなったのに今度、大阪松竹座で藤山扇治郎さんと痛快娯楽時代劇を上演するんですよ。そこで刀を振り回してしまおうから、また『恐怖時代』に戻った時には自分で殺せばいいのってぐらい剣の達人になっていそう(笑)。でも、か弱さと美しさをきっちり兼ね備えたお銀の方を出せ



ばいいなと思います。女性の中にある男性とは違う芯の強さ、せつなく美しく美しい部分を上手く舞台で表現できたらいいなと思います。

——それは楽しみですね。ところで京都での舞台は初めてですか？

北 ハツ(驚いて)、初めてかも！宝塚って京都でやらないですね。退団してからアルバムを出した時、コンサートツアーで京都劇場には出たことがあります。でも芝居は初めてです。

でもよく京都には在団中に遊びに来ていたんですよ。嵐山の天龍寺さんには良く行きましたね。訪れる度にお庭の景色が変わるんですね。そういう日本らしさを感じられるところがいいですね。



へあらずじ)

## 一部『恐怖時代』

谷崎潤一郎 Ⅱ作  
藤間勘十郎 Ⅱ演出

江戸深川辺に極めて広大な屋敷を持つ春藤家——。太守の采女正は残忍な性格の上、日夜酒宴にふけている。その愛妾・お銀の方の産んだ子・照千代は、実は太守の子ではなく、深い仲となっている家老・鞆負との子であり、その子に家督を継がせるため、二人は太守と現在妊娠中の正妻を毒殺し、お家の乗っ取りを企んでいた……。

## 二部『多神教』

泉鏡花 Ⅱ作  
藤間勘十郎 Ⅱ演出・振付

山中の社、奥の院にて——。村祭りの最中、一面を被った村人らが踊りを披露し、ひと踊りを終えて神職たちと休憩をしているところに、一人の女が現れる。どうやら丑の刻参りの女で、藁人形を持ち、嫉妬心から惚れぬいた男を呪い殺そうとしている様子である。女にとっては今日が満願で、願いが達成する日であったが、神職や村人たちに辱めを受けてしまう。すると御堂正面の扉が開き、気高く世にも美しい媛神が現れて、女に満願成就させてやろうと言って……

媛神ひめがみと神職とのやりとりが、美しい言葉でコミカルに描かれた作品で、幻想的でありながら、風刺、洒脱味にあふれた鏡花の戯曲。

## 北翔海莉 (ほくしょうかいり)

1998年、84期生として宝塚歌劇団に入団。2014年、花組公演『エリザベート』にて皇帝フランツ役を務めた。2015年5月、星組男役トップスターに就任。2016年11月『桜花に舞え/ロマンス!!』をもって退団。退団1ヶ月後にクリスマスディナーショーを開催。2017年4月には北翔海莉1stアルバム『Alrai～エルライ～』をリリースし、『ALL JAPAN TOUR 2017』を開催。2017年9月ブロードウェイ・ミュージカル『パジャマゲーム』にて主演。



プロフィール